

# 学生支援室FD・SD講演会（H30.10.31）アンケート集計

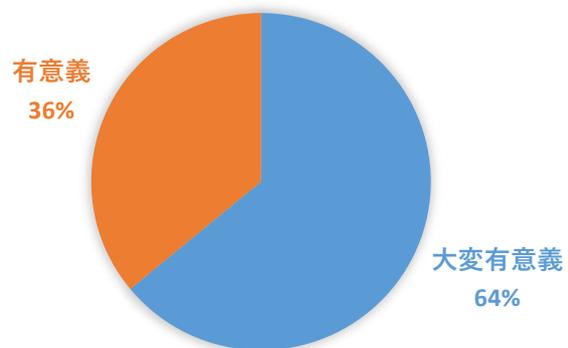
出席者：70名（学内：55名 学外：15名） アンケート回答率：73%

	教員	専門職員	事務職員	その他	合計
学内	17	3	14	4	38
学外	1	8	4	0	13
合計	18	11	18	4	51

## 講演について

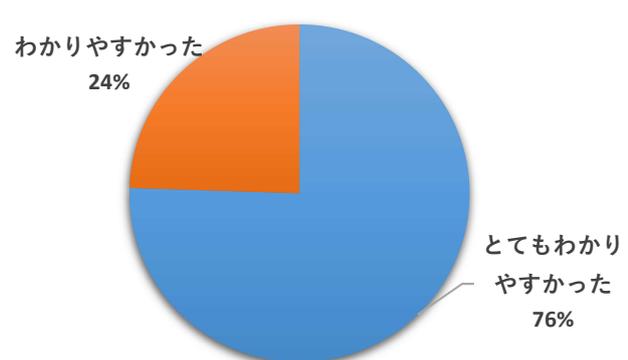
講演は有意義でしたか？

大変有意義	32
有意義	18
普通	0
あまり有意義ではない	0
有意義ではない	0



講演の内容はいかがでしたでしょうか？

とてもわかりやすかった	37
わかりやすかった	12
少し難しかった	0
難しかった	0



■ とてもわかりやすかった
 ■ わかりやすかった  
■ 少し難しかった
 ■ 難しかった

## 感想(抜粋)

・この度の講演会で「合理的配慮」について、より深く理解できました。とくに「社会的障壁」を取り除くことが重要なのだということがよくわかり勉強になりました。

・具体的な事例を通して、ポイントを押さえていただいたのでわかりやすかった。しかし、現実的には個別性があり双方の対話によって支援が行われる必要があるので実際には難しいと感じた。やはり、組織的な対応を考えていかなければならないのではと思った。

・説明が具体的で大変有意義でした。かゆいところに手がとどく内容でした。本当にありがとうございました。

・高等教育での特別支援教育に関わっていたが本人への告知について親に強く勧めることもできず困った経験があります。大学での合理的配慮(本人の意思表示)について学ぶことができ勉強になりました。

・障がいがあるかどうか微妙な学生が窓口に来ることがあり、通常の学生よりは配慮しているが、いつかのタイミングで学生支援室に支援をお願いした方がいいか迷う。

・自分の授業の本質は何かを自分自身が問う、というきわめて重い課題を突きつけられたよい機会だった。

・熊大にバリアフリーマップがあることを始めて知った。全学HPに載せた方がいいと思う。(外部訪問者にとって必要な情報)

・実習、実験での対応の仕方の考え方について改めて認識しました。

・学生、教育を職員、業務に置き換えて考えることができる内容でした。今回は教育における合理的配慮がテーマでしたが、企業や労働環境における合理的配慮というお話も聴ける機会があるとよいと思いました。

・具体例により大変わかりやすかった。支援を行う上での対話は改めて重要だと痛感した。

・大学内の合理的配慮等、各分野において実習等や本人の特性理解をふまえ、やはり共通事項+個別対応が必要だと思いました。その中で、連携・協力のあり方が今後の検討だと感じました。

・「障害の有無」が大きいのだと感じました。本人の意思表示が、この自己主張が難しい、この一歩にどれだけの勇気がいるのかを考えるとそのサポート、説明を大切にしたいと思いました。